

事務事業名		広域連携観光振興事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	23 豊かな地域資源を活用した観光の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	011 観光客の誘致と観光宣伝の充実					01	07	01	04	08
根拠法令											
所属	部課名	商工観光部 商工観光物産課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 - 年度～) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	観光係	電話内線	114							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
広域による観光誘客の推進を図ることが効果的であることから、関係市町村等で組織する団体に負担金を交付し、主に次のような活動をしている。 ・パンフレットの作製、配付 ・旅行商品の開発 ・観光宣伝キャンペーン ・情報の提供、交換 主な業務は、①担当者会議への出席、②負担金の支出、③各種情報の交換、④観光キャンペーンの実施。事業費は、負担金として支出される。						総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		
									都道府県支出金		
									地方債		
									その他		
									一般財源		
						事業費計(A)		0			
						人件費	正規職員従事人数				
							延べ業務時間				
							人件費計(B)		0		
						トータルコスト(A)+(B)		0			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 負担金の交付(東北都市観光協議会、陸中海岸国立公園協会、国立公園協会、五葉山自然保護協議会、国立公園関係都市協議会、黄金王国推進委員会、財団法人岩手県観光協会) 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度実績に加え、24年度開催のいわてDCに向けた受け入れ態勢の整備(観光素材の情報収集・情報発信など)を行っていく。	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
	名称	単位
	ア 担当者会議出席回数	回
	イ 観光キャンペーン実施日数	日
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ・直接対象 広域観光関連団体 ・間接対象 観光客	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
	名称	単位
	カ 負担金を支払っている広域観光関連団体数	団体
	キ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・広域圏の観光PRを通じて、大船渡市の観光資源を知ってもらう。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
	名称	単位
	サ 広域圏の観光PRを通じて大船渡市が紹介された件数	件
	シ	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・大船渡市を訪れてもらう(訪れたいと思ってもらう、再び訪れてもらう)。 ・大船渡の魅力がPRされ、認知度が高まる。	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	1,686	1,606	1,532	1,452	1,652	1,467	
		事業費計 (A)	千 円	1,686	1,606	1,532	1,452	1,652	1,467	
	人件費	正規職員従事人数	人	4	5	4	5	4	4	
		延べ業務時間	時 間	60	60	100	276	174	150	
		人件費計 (B)	千 円	240	240	400	1,104	696	600	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	1,926	1,846	1,932	2,556	2,348	2,067	
⑤活動指標	ア	回	7	7	6	8	6	8		
	イ	日				5		4		
	ウ									
⑥対象指標	カ	団体	1,686	1,606	1,531	1,531	1,531	1,531		
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	件	2,256	2,256	2,256	2,256	2,256	2,256		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0446	事務事業名	広域連携観光振興事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

各団体等の結成に伴い、負担金を交付した。開始年度は各団体の結成年度である。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

加盟市町村の脱退や合併による会員数の減少等によって組織の形骸化が進んで組織本来の目的を達成することが困難になったことなどにより、全国都市観光連盟と三陸観光協会が平成17年度に解散するとともに、平成19年3月には気仙地区広域観光情報提供システム管理協議会が、インターネットの普及やシステムの不具合などから解散した。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 広域圏の魅力をPRして訪れてもらうことで、当市の観光振興につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 行政として観光振興施策を推進するための組織の負担金であるため。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 加盟している組織の負担金である。対象・意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 長引く景気の低迷から入込観光客数が減少しており、成果の向上はかなり困難である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 広域での連携した観光振興が行われなくなる
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 それぞれ目的を持った組織となっており、統廃合は不可能である。 ☒ 他に手段がない ⇒ [理由]
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 効果的な事業運営に努めることや、公平かつ合理的な会費制度とすることなど、削減の余地がある。大船渡市の観光資源がPRされる団体活動に特化していく。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 五葉山自然保護協議会については、2年ごとに釜石市と交代で事務局を担当している。安全祈願祭と調査登山は毎年対応しなければならず、事務局を担当した場合は事務量が増加する。その他の組織はほとんど事務量はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 組織の目的を達成するための負担金であり、適正である。

事務事業ID	0446	事務事業名	広域連携観光振興事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 岩手県観光協会では、岩手県が会費の削減を行ったことから、市町村及び観光協会等の会費も同率で削減した経過があり、収入に見合った事業実施に対応している。 このことから、事務事業の見直し(縮小)によっては、事業費の削減も可能である。																			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☒ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 現状通り実施していく。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上																																
	維持		●	×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																																	

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	商工観光物産課長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 事業の意図等を的確に把握しており、適切な評価となっている。																		
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☒ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 当市が加入している組織の活動内容等を確認し、加入の是非について検討を進める。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上																																
	維持		●	×																													
	低下		×	×																													

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
